

平成9年(1997年)7月15日発行

学園創立
90周年

記念式典 盛大に!!

華中理工大の黄副校長らも参列

夜来の台風八号もおさまった、さる六月二十九日(日)。体育館を会場に、中学・高校・大学の教職員ならびに来賓など約四百名の参加を得て、『学園創立九十周年』の式典が賑々しく執り行われた。

来賓の中には、十余年にわたる学術交流の歴史を有する中国・華中工科大学(武漢市)より、黄承堂(ファン・チェンタン)副校長、宋承耕(ソン・チェンジェン)教授、余海林(ユ・ハリン)副教授のお三方の姿も見られた。

ちなみに式典は午前十一時に始まり、大川陽康理事長の式辞、永年勤続者の表彰、来賓諸氏の祝辞、懇談パーティーと、滞りなく行われた。

大川理事長の式辞は、概略以下の通り。

まず、晴れて創立九十周年を慶賀できるのは、先輩諸氏のご努力の賜物。いま学園の運営を預かる立場から「深い感謝と敬意を表したい」と述べ、次いで、この十年の学園の目覚ましい活動ぶりや環境整備にふれ、学術面においては、工高における「SLづくり」の活動に対する文部省大臣賞の受賞や大学の「ネパール仏

教僧院復元プロジェクト」が達成したこと。さらに大学院における多数の課程博士や論文博士の輩出を指摘し、教育環境面においては、電気電子工学科、建築学科、情報工学科、機械工学科の各実験研究棟の建設。また学園創立九十周年にちなんで、後援会や同窓会の多大なお力添えでお目みえした「スチューデントセンター」などが「活動の充実ぶりの一端を象徴する」と報

告。中学・工高にあつては校舎のリニューアルに着手「これも数年後には完成する予定」と、進捗状況を披露した。

結びは、二十一世紀に対応した学園のあるべき姿に。今後は「国際センス」と「自発性・創造性」の素養をもった人材育成が急務。教職員一同、その目標に向けて努力してほしいというものでした。

なお、祝辞を頂いた方々は、横尾肇(東工学園同窓会会長)、高根雅行(日本工業大学工友会会長)、和田達三(日本工業大学付属東京工業高等学校・同中学校後援会長)、田川鋭治(日本工業大学後援会会長)の四氏である。



厳粛に挙行された式典風景

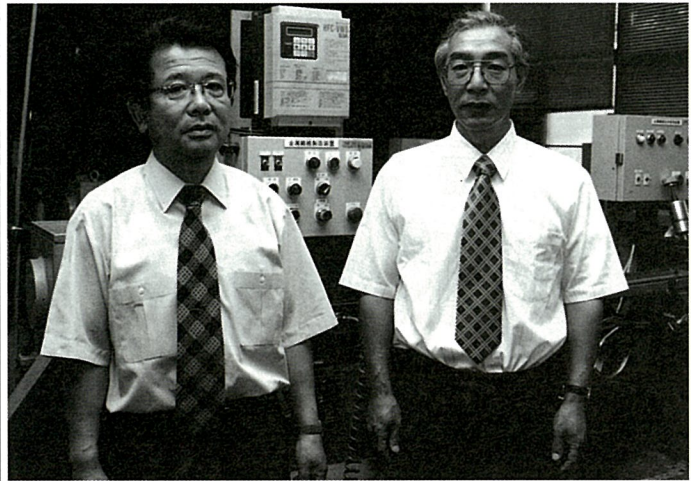


式辞を述べる大川理事長



懇親会での小笠原副理事長(左)、黄・華中理工大副校長(中)、神馬学長(右)。

柳澤教授・兼子助手が「技術賞」受賞 低コストで切削金属繊維を 「樹脂被覆」で良材を製造



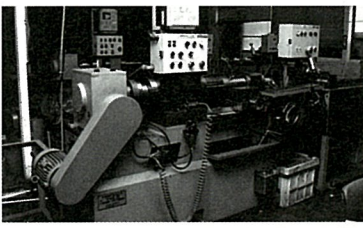
柳澤 章教授(左)と兼子正生助手

六月十三日、大阪科学技術センターにおいて、機械工学科の柳澤章教授ならびに兼子正生助手に対する(社)日本繊維機械学会平成九年度「技術賞」の授与と受賞者講演会が行われた。

受賞対象は「コイル材切削法による金属繊維製造装置の開発」。ちなみにこの

技術は、ステンレス鋼や銅などの金属繊維を、均一かつ低コストで製造できる画期的なもの。開発の核心ともいえるべき点は、独自開発の切削装置によりコイル状に巻いた金属薄板の端面を切削する方法で、主軸と送り精密に制御。その際、薄板をあらかじめ樹脂コーティングを施しておくことで、薄板の溶着が原因で不揃いがない良好な形状の金属繊維を作り上げることになった。

なお金属繊維は、すでに集束伸法が実用化されているが、柳澤・兼子の両先生が開発されたくだんの新技術は、従前の方法に比べて、実に十分の一近くまでコストダウンが図れる点が最大の



開発された金属繊維製造ライン

の利点。したがって今後は、たとえば自動車用マフラーの耐熱消音材、空気や水などの浄化用各種フィルター、さらにはブレーキパッド混入繊維基材や各種電池電極材など、たいへん幅広い分野での用途が期待される。さらに言えば、前述のステンレス鋼や銅などのほかに、チタン、ジルコニウムといった素材の繊維化も可能とか。なかでも注目されるのは、約一千度Cの高温連続使用に耐える耐熱ステンレス鋼を繊維化して造る面燃焼バーナーや、高温排ガス用マフラー材としての用途拡大への期待。

受賞式に臨まれた柳澤教授は、その概観を、こう語られた。

「これまでの研究の集大成である製造装置の開発が評価されて、大変うれしい。これから研究を支援して下さい。理事長・学長はじめ、学園関係者の皆さんに深く感謝申し上げます。」



受賞の岩谷朋君

岩谷君の論文、 情報処理学会で 奨励賞を受賞する

情報工学科松田・新藤研究室の岩谷朋君(大学院工学研究科電気工学専攻修士課程を平成九年三月に卒業)が大学院在学中に情報処理学会第五十三回全国大会(平成八年九月)で発表した論文が、平成九年三月に情報処理学会全国大会奨励賞を受賞しました。

論文題目は、「動きのある仮想空間をインターネット上に構築する記述言語PaaSScript」。この賞は、大阪工業大学で開催された第五十三回全国大会で発表された九七一件の発表論文の中から、大会奨励賞選定委員会(委員長・池田克夫)による厳正な審査を経て、

現在、岩谷君は、(株)富士通京浜システムエンジニアリングにて活躍しております。

十一名が選ばれて受賞しました。過去の例からも大学院修士課程在学中の学生が受賞する事例は珍しいケース。

岩谷君の研究のテーマは、新藤研究室で行われているバーチャルリアリティ関連研究の中でも中核部分にある先進的なもの。インターネットのホームページの中に、文字、写真、音声ではなく、仮想的な3次元空間を作り出し、この中に機械、動物、植物、人間などの様々なオブジェクトを登場させ、これらをダイナミックに動かそうという挑戦的な試みでした。現時点では、仮想空間内のオブジェクト群を効果的に動かす技術は模索中で世界的にも確立しておらず、こうした試みが評価されたものと思われ

◆平成10年度推薦入試日程決まる!

- *推薦A方式
出願期間: 10/1(火)~10/7(火)
合格発表: 10/18(土)
- *推薦B方式(第1回)
出願期間: 9/8(月)~9/30(火)
面接: 10/1(水)→仙台 10/2(木)→新潟
10/3(金)→岡山 10/4(土)→大学
10/6(月)→松本 10/7(火)→名古屋
10/8(水)→静岡 10/9(木)→大学
合格発表: 10/18(土)
- *推薦B方式(第2回)
出願期間: 12/1(月)~12/10(水)
面接: 12/12(金)→大学
合格発表: 12/20(土)

三浦勲郎先生を偲ぶ

追悼

図書館長——竹内 淳彦教授

本学元学長三浦勲郎（みうらゆきお）先生は、五月二十日逝去された。享年85歳であった。

先生は、明治四十五年東京に生まれ、旧制武蔵高等学校、東京帝国大学文学部独逸文学科を卒業された。高校から大学にかけての先生は、バスケットボールの選手として活躍された。さらに大学院で研究を重ねられた後、第七高等学校造士館を振り出しに熊本陸軍幼年学校、第五高等学校などの教授を歴任された。その後、陸軍に応召され、スマトラ島など南方戦線に参加され終戦を迎えられた。昭和二十二年復員後は法政大学教授を経て東京学芸大学教授となり、附属小・中学校、学部長などを歴任された。昭和五十年、日本工業大学の教授となり、図書館長を務められた後、昭和五十四年学長に就任、昭和六十二年任期満了に伴い退任、名誉教授の称号を贈られた。この間、勲二等瑞宝章を授けられている。



三浦元学長

先生は、学長在任中、大学院の設立など、研究、教育体制の充実、華中理工大学との学術交流協定の締結など国際交流の推進に大きな成果を挙げられたが、なんといっても先生の教育者としての真骨頂は学生との交流である。大学祭の期間中は毎日いずれかの会場で学生と談笑する先生の姿を見ることができた。体育祭では自ら騎馬戦に参加され学生を感激させた。バスケットボールのコーチをかってでられたこともある。先生の温顔はいつも学生の輪の中にあつた。いまも本学の名物となっている成人式や盆踊り、それに、卒業式恒例の鏡開きも先生の音頭取りで始められたものである。先生はまた、「四季の歌」をはじめ多くの学生歌を作詞され、その多くは現在も歌い継がれている。酒をここのほか愛され、朝

日新聞に「酒仙」と紹介されたこともある先生は、若い先生たちとの語り合いを楽しまれ、学長室から酒の香りが漂うこともたびたびであった。一躍有名になった「酒からダイヤモンド」もこうした熱い語り合いのなかから生まれた発想である。先生のお住まいは成城の閑静な住宅街の一面にあり、門前には広い畑が残っていた。その向こう側には前からあった欄干をそのまま残してある。その欄干が得意なものであり、先生は、季節と共に移り変わる庭の草木を愛でながら酒を楽しまれ、また、数々の優れた著作を発表された。先生の代表的な著作としては、前出の「回想と随想」のほか、「生きるということについて」の元著、「永遠のユダヤ人」、「ユダヤ笑話集」、「ベートーベン」、「ゲーテ詩集」、「小説モーツァルト」、「愛と思索の日々」などがある。先生は、学長在任中、大学院の設立など、研究、教育体制の充実、華中理工大学との学術交流協定の締結など国際交流の推進に大きな成果を挙げられたが、なんといっても先生の教育者としての真骨頂は学生との交流である。大学祭の期間中は毎日いずれかの会場で学生と談笑する先生の姿を見ることができた。体育祭では自ら騎馬戦に参加され学生を感激させた。バスケットボールのコーチをかってでられたこともある。先生の温顔はいつも学生の輪の中にあつた。いまも本学の名物となっている成人式や盆踊り、それに、卒業式恒例の鏡開きも先生の音頭取りで始められたものである。先生はまた、「四季の歌」をはじめ多くの学生歌を作詞され、その多くは現在も歌い継がれている。酒をここのほか愛され、朝

特報

この四月より、情報工学科の三年生を対象とした必修ゼミとして、「情報活用ボランティア活動」が実施されている。内容は、小・中・高校および福祉施設、研究機関などにおいて、支援や情報システムの開発を手助けするもの。毎週一日（八時間）を活動日として、参加者には二単位が与えられる制度。同学科の片山茂友教授によれば、「活動の制度化は平成七年度の学科開設以前に構想され、いわゆる「ボランティアブーム」を狙ったものではない」とのこと。受け入れ側の評価は、なべて好評。以下に、その活動の一端を報告する。

注目される「拳三得」の情報活用ボランティア

上尾市の荒川土手に程近い埼玉県総合リハビリセンター。約三万八千平米の敷地内に、一二〇床をもつ病院をはじめ障害者更正施設などの施設があるが、その中の「リハビリセンター工学研究室」も、学生たちの活動現場のひとつだ。

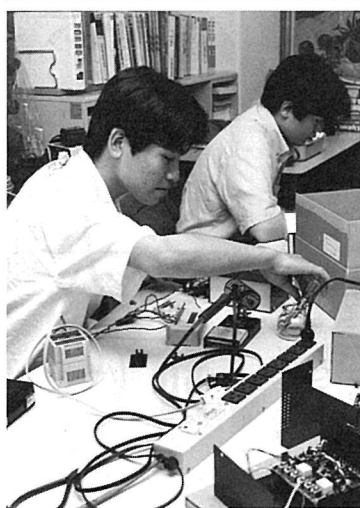
のニーズに即して独自の開発を手がけること」にあり、いわば新医療システム部門といつてよい。

したがつて、学生たちが奉仕する場所は、どちらかといえば、大学の研究室のおもむき。ちなみに活動メンバーは藤田弘道（大宮工業、横山嘉徳（高萩工業、五味圭司（東京工業、佐々木直子（五所川原工業、徳永努（藤枝北 上野達徳（長野工業、劉嘉敏（留學生・台湾）ら八名の諸君。筆者がルポしたこの日で八回を数える。せいか、皆のびのび奉仕に専念している、と見受けられた。

仕事の中身は、プログラムデータ入力、劉君を除いた前々回の作業風景



写真上「リハビリセンター」前の学生諸君。左「同センター」内の作業風景



の四君で、こちらの内容は、一年生から五年生に、順次パソコン操作を教える、というものであった。九時半からの「コンピュータの基礎」で、一年生の授業をのぞくと、きらきら輝いた目が、パソコンの前に居並んだ。ここも今日で八回目。習っているのは「保存の仕方」



パソコン実習を楽しみにしている子供たちが多い



▲パソコンは面白いナ!!

一方、学生達も、逆の意味で活動のメリットを感じ取っている。それは、概ね以下の天沼君の感慨に集約できるようだ。

「いや、これまで気分がなかったけど、教えるってことは、ホントに大変なことですね。つまり、そのためには、まず自分がよく理解していなければならぬから、大学の講義なども身を入れて聴くようになった。」

青木取講師の手に提出された、彼ら以外の「情報活用ボランティア活動報告書」でも、同様の感想が多く目につく。

ともあれ、この活動現場を垣間見ている思いは、「教える」「学んで」「感謝される」の三点にある、というのが率直な印象だった。つまり「拳三得」どころか「拳三得」の効用、である。

呂氏の大学院時代の研究に、塑性加工学会より「技術開発賞」が!

共同研究者の村川教授が貢献



呂 言氏

第一面で紹介した岩谷君の「奨励賞」受賞に見られるように、昨今、大学院生たちの研究が、たいへん充実の度を増している。

機械工学専攻で、現在は「株」アミノエンジニアリング

グ主任研究員の任にある呂言（ル・ヤン）氏も、さる五月二十三日に開かれた平成九年度日本塑性加工学会において、みごと「技術開発賞」を授けられた。

対象となった業績題目は、同氏が院生時代、村川正夫教授（株）アミノの網野・岸本行男氏らの共同研究者を得てのものした「精密ローリングカットシャワーの開発」内容が、シャワーリングにおいて従前より問題になっていた製品の切断不良、すなわち「そり」「ねじれ」「キャンバ」を解消する、新しいシャワーとして逆押さえを設けたローリングカットシャワーの原理の考案である。

科研費補助金九プロジェクトに内定

文部省による平成九年度科学研究費補助金が内定した。本学において対象となった研究は、新規・継続を含め九件で、以下の通り。

①電気電子工学科・森真作教授による「結合共振系にみられる四相同期現象とその応用に関する研究」(新規)

②電気電子工学科・石川豊助教授による「固相拡散によるシリコンウェハ内への浅いpn接合の低温における形成方法の確立」(継続) ③建築学科・波多野純教授による「江戸の武家地形成過程と都市景観の研究」(武家の階層性と都市構造) (新規) ④建築学科・黒津高行助教授による「ネールのパタン王宮における塔の復

①建築学科・北後寿教授を研究代表者として、竹内淳彦（共通系・教授、宮坂修吉（建築学科・教授、加村隆志（建築学科・講師、小牟真一郎（建築学科・講師、貫井光男（建築学科・講師）が、分担者として参加する「沖縄地方組積造建築物に関する学術調査研究」(継続)

⑤システム工学科・渡部修一助教授による「立方晶窒化ホウ素膜の応用に関する研究」(新規)

⑥共通系・竹内淳彦教授による「都市環境変化と工業集積変動に関する研究」(新規)

⑦共通系・橋本英哉助教授による「例外リ一群とグラスマン幾何学」(新規)

⑧共通系・大野修一助教授を代表者として、船橋昭一（共通系・教授、橋本英哉（共通系・助教授、石崎克也（共通系・助教授、衛藤和文（共通系・講師）が、分担者として参加する「解析関数空間の構造とその上の作用素の研究」(新規)

博士課程に入学。同四年三月、課程修了とともに博士(工学)の学位を取得している。

神馬学長が、塑性加工学会の名誉会員に!

本学の神馬敬学長が、上記の塑性加工学会において、めでたく名誉会員に推挙された。

同会における神馬学長の業績・功績は、ことのほか大きく、昭和五十八年に論文賞と会田技術賞、同六十二年には再び論文賞を受賞。また同六十六年から平成元年度まで、同学会の副会長として、その運営に尽力されている。

なお、本学からの名誉会員就任は、大川陽康理事長に次いで二人目。いまは大学運営に多忙な日々を送られているが、歴史ある学会への、さらなる貢献が期待されている。

体育祭——熱戦・珍戦に沸く!! 建築学科チームが栄冠



去る五月二十三日(金)、本学陸上競技場において学長以下諸先生方を来賓に迎え、体育祭が開催された。前々日には大雨が降るなど、直前まで開催が危ぶまれる空模様だったが、ぬかるんだグラウンドの水をス………写真上：学科の旗に囲まれた選手宣誓。左：ボール渡し競技のひとつコマ

ボンジで吸い取るといった体育祭実行委員会の地道な努力が実を結び、なんとか開催にこぎつけることができた。当日は五月下旬とは思えない寒空で、来賓用のテントにはストロープが用意された。これは三十年をかぞえる体育祭の歴史の中でも初めてのことである。

あつたが、百メートル走り選を皮切りに始まった競技では熱い戦いが繰り広げられ、最後の棒おしが終わった段階で建築学科チームの優勝が決まった。表彰式の後の大抽選会では、留学生別科からの参加学生や職員にも商品が当たった。参加者全員でおおいに盛り上がった。

野球部が堂々 一部リーグに昇格!!

本学硬式野球部が東京新大学野球連盟の春季二部リーグ戦において優勝し、次いで一部リーグへの昇格を

果たした。硬式野球部はここ数年來三部リーグに所属していたが、今のチームが組まれてからは快進撃を続けている。

近事片々

大学を卒業して十七年が経過し、突然大学通信「OB便り」の執筆を依頼された時、久々に学生時代を思い出し懐かしくなりました。

私はシステム工学科の二期生として入学し、卒研は、故・轡田教授のゼミで行いました。なぜ轡田研を選んだかと言うと、轡田研の卒研生になると通産省工業技術院電子技術総合研究所(電総研)に実習生として派遣させて頂けるという希望が叶えられるからです。

この研究で大変面白かったのが、人間の脳の研究を進めるにあたり、実験にイカの神経を使用することです。イカ

の神経が太くて実験がやりやすいという理由なのですが、研究の手法には色々な方法があることを知り感心しました。また、このイカの餌が金魚で、これを食べるとだんだん赤い斑点がイカの全身に出てきて何とも不気味で

鉄道(国鉄)に入社し、を安全元年と位置づけ、各種対策とともに、鉄道の安全を総合的・科学的に研究する専門機関として発足しました。研究分野としては安全性評価、ヒューマンファクター、踏切・防災、安全システム等の四分野に別

れ、総勢六十名の研究員で構成されています。私はこの中の安全システムに所属し新しい列車の保安装置の開発に携わっています。さて、JR東日本の鉄道の安全性がどれくらいかご存じですか。ある研究所の研究では乗客の死

亡危険率(千億人キロ当たりの乗客死亡人数)は〇・七人で、これは世界最高水準にあります。北米や韓国の鉄道に比べても二桁以上の高い安全性であり、また一九九四年の日本の道路交通に比べても約二〇〇〇倍の安全性となります。

話が逸れてしまいました。研究開発を行って思うことは色々な角度から物を見て判断する能力と形にはまらない発想(あのイカのような)が必要だと思えます。また、外国の文献調査等もあり語学力もそれなりに必要でこんな事ならば学生の時にもっと真面目に語学に取り組んでいればよかったと今頃になって反省しています。

今後は学生時代の経験を生かし研究開発は大胆に、かつ最新の注意を払って進めて行きたいと思っています。

入替え戦は、六月十四、十六日に行われ、こちらも二勝一敗の成績を修め、年々の悲願をかなえることとなった。大躍進を達成した今期のチームはこれで引退し、秋のリーグ戦からは新しいチームが編成され、一部リーグで戦う。

創価大学、流通経済大学などセミプロ級の選手を抱える強豪相手に、実験・実習をこなしながらの本学野球部は大変苦しい戦いを強いられるだろう。しかし、そんな逆境にめぐることなく来年もおおいに気を吐いてほしいと望んでいるのは、引退する四年生だけではない。秋期リーグが待遠しい。

OB便り



研究開発は大胆かつ 細密に推進したい

大曲 雄二

システム工学科 (第二期生)

JR東日本旅客鉄道(株)安全研究所勤務

驚きました。なお、この実験が終わったあとに、残った身で盛大に天ぷらを作りイカの供養をしたことを覚えていてます。

今思うとこの電総研の経験が後の研究所での仕事の始まりだったような気がします。大学卒業後、日本国有

安全研究所は昭和六十三年の中央本線東中野駅の列車追突事故を契機に、このような事故を二度と起こさぬよう翌平成元年

に、総勢六十名の研究員で構成されています。私はこの中の安全システムに所属し新しい列車の保安装置の開発に携わっています。

入替え戦は、六月十四、十六日に行われ、こちらも二勝一敗の成績を修め、年々の悲願をかなえることとなった。大躍進を達成した今期のチームはこれで引退し、秋のリーグ戦からは新しいチームが編成され、一部リーグで戦う。

創価大学、流通経済大学などセミプロ級の選手を抱える強豪相手に、実験・実習をこなしながらの本学野球部は大変苦しい戦いを強いられるだろう。しかし、そんな逆境にめぐることなく来年もおおいに気を吐いてほしいと望んでいるのは、引退する四年生だけではない。秋期リーグが待遠しい。

入替え戦は、六月十四、十六日に行われ、こちらも二勝一敗の成績を修め、年々の悲願をかなえることとなった。大躍進を達成した今期のチームはこれで引退し、秋のリーグ戦からは新しいチームが編成され、一部リーグで戦う。

STUDENT

'97
face

ここ数年、部員がいなくて廃部同然となっていたボデビル部に一年生が二人入部し息をふきかえした、との話を聞き、そのうちの一人、鈴木和譽君を取材した。

出身高校と日工大入学の経緯は?



鈴木和譽君
(電気電子工学科1年)

■「筋力」「眼力」を養って
独立の道を歩みたい

いいえ、高校でのクラブ活動は無縁部です。そのほかに自分で極真空手の道場に週三回ほど通っていました。その基本的な筋力をつけるといふ意味もあって、ボデビルをやってみようと思いました。

普段の練習はやはり体力好きなどところで練習が行なえるんです。もう一人の部員の長濱生待君とは出身高校も学科も違いますが?

ええ、ボデビルに入る前からの知り合いではあります。ボデビルをやってみたいと体育会本部を訪

切り上げなければなりません。それで活動がすれ違ひになってしまつてゆつくり話をする機会がなかなかないので悩んでいます。

大学にはいつてよかつたことか?

いろいろな地方出身の友達が多かったです。ボデ

将来の仕事については企業に勤めるよりも、行政書士や弁護士などで独立したいと思っています。なんで日工大にきたのかと聞かれそうですが、手に職をつけて使える人材になりたい、率直に言えば、つぶしの効く人間になりたいと思って日工大で学んでいます。

最後に何か言いたいことは?

ボデビル部では部員募集をしています。大会に参加して優勝を狙おうという本格派はもちろん、健康増進のため体をちよつと鍛えたいという人も大歓迎です。一緒に楽しくやりましょう。

いろいろな本を読んだりして



見事リーグ昇格を果たし氣勢上がる部員たち

学園創立90周年 記念行事参加者募集中

文化行事

絵画、写真、工芸品など

日工大生、教職員、卒業生、地域住民の方々

受付：9月20日～10月4日

記念歌事業

①歌詞のみ ②歌詞+曲

日工大生、東工生徒、卒業生、教職員

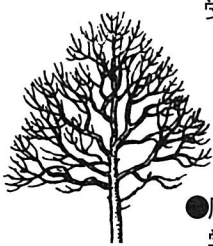
受付：7月31日まで

学生スタッフ募集

夢アドベンチャー計画

締切：特になし
(体育行事は、既に展開中です)

●応募作品の提出および問い合わせは
学生課もしくは学生自治会へ



スチューデントセンター

竣工!!

新しい“革袋”に即した学園ライフを…



クラブ棟・合宿棟側から見た景観



竣工式に集った学園と工事関係者



体育館側に設けられた入口

さる六月十七日、順次ご報告してきた、学園創立九十周年の記念事業である「スチューデントセンター」建設工事の竣工式が終わり、いよいよオープン運びとなった。おかげさまで、学生たちの学園内の生活にふさわしい軽快感に満ちた出来映え。たぶん今後は、当施設をめいっぱい活用して、各種の文化活動やイベントが展開されるに相違ない。

また秋の学園祭では、当所においても様々な催しが企画されているので、一度ぜひお運びいただきたい。建設に多大なご支援を賜った皆様方に、この場より厚く御礼申し上げます。

平成九年度後援会定期総会

新会長に田川鋭治さんが就任

去る五月十八日(日)午後一時より、大学学生会館ホールにて平成九年度後援会定期総会が開催された。

当日は、委任状出席を含め二七三名の会員が出席。大学側からは、神馬学長を初めとして、竹内図書館長、鈴木総務部長、廣瀬教務部長、小林学生部長、安部財務部長以下、各課長が出席した。

総会は、議長に金城英三氏(卒S・沖繩)を選出し、議事を進行。

平成八年度事業報告を神山英一会長(卒A・岩手)より、同年度決算報告を長田之孝財務(2C・東京)より、同監査報告を辻等監事(3M・東京)より報告。並びに平成九年度事業計画案を田川鋭治総務(1E・静岡)より、同年度予算案を寒川好明財務(3A・大阪)より提案。慎重審議の結果、いずれも原案どおり満場拍手により可決した。

続いて、理事・監事の銓衡並びに役員選出の議案審議に移り、赤田光平銓衡委員長(卒S・新潟)より銓衡委員が紹介され、銓衡結果を報告。理事候補者一五名、監事候補者一名(内留任七二名・新任四十五名)全員が満場拍手により承認された。

引き続き、役員選出が行われ、新会長には田川鋭治氏を選出し、以下九年度後援会の新体制が発足した。

平成九年度後援役員

会長 田川鋭治(1E・静岡)

副会長 辻等(3M・東京)

寒川好明(3A・大阪)

長田之孝(2C・東京)

矢島幹子(4E・群馬)

速水友益(4A・埼玉)

小川佳文(3S・千葉)

菊地賢一(3S・岩手)

大角 巖(4A・広島)

小玉雄(4A・新潟)

以上、全ての議案審議が滞りなく行われ、午後二時三〇分、総会は終了した。

この後、会員は、新設された機械工学科棟や、完工したばかりのスチューデントセンターを見学。学友会館ホールでは、平成八・九年度理事による理事会が開催された。理事会では、学長より二十九名の卒業理事へ、後援会活動への尽力に対し、感謝状と記念品が贈呈された。

午後四時、再び一同サービスタワー食堂に会し、全国各地から訪れた会員と大学側出席者が懇親を深める中、全日程を終了した。

台湾・国立交通大学と学術交流協定締結

学長と有賀助教授が訪台

四月十九日より神馬学長と機械工学科有賀助教授が台湾の国立交通大学と学術交流協定を結ぶために、台湾の新竹市(台北から約30キロ南)の大学を訪問しました。台湾の国立交通大学は中国の交通大学と起源が同一で、第二次世界大戦後台湾に渡った交通大学関係者が設立した大学であり、

四月十九日より神馬学長と機械工学科有賀助教授が台湾の国立交通大学と学術交流協定を結ぶために、台湾の新竹市(台北から約30キロ南)の大学を訪問しました。台湾の国立交通大学は中国の交通大学と起源が同一で、第二次世界大戦後台湾に渡った交通大学関係者が設立した大学であり、



協定書の交換風景

このたび学術交流を結ぶに至った経緯は、同大学の蔡忠均教授が平成五年本学の長田重慶教授(現名誉教授)のもとに三ヵ月研究員として来学されたこと、またミニSLの製作に当たった技術指導・援助を行ったことなどから、蔡教授が両大学の橋渡しをし、日本大学とは初めての学術交流を行うことになりました。

梅崎助教授が相次ぐ受賞!

本号の校了間際、機械工学科の梅崎栄作助教授に、(社)日本非破壊検査協会より「協会奨励賞」、日本光弾性学会より「論文賞」が授与された。

詳細は次号でお伝えするが、ご業績をたたえる意味で、速報しておきたい。



梅崎助教授

人事異動

【昇任(7月1日付)】

◆佐伯 正盛助教授(超高压放電研究センター) 教授に昇任

【国外研修(5月6月)】

◆田中 隆治助教授(工業教育研究所) 出張先「カナダ(5/16→5/25)目的「留学生指導及びカナダ研究所にて打合わせ」

◆森 真作教授(電気電子工学科) 出張先「イギリス(6/7→6/13)目的「回路とシステム国際シンポジウムにて論文発表」

◆鈴木 清教授(システム工学科) 出張先「トルコ(6/16→6/24)目的「型技術に関する国際会議にて研究発表」

◆泰野 愈士講師(電気電子工学科) 出張先「インドネシア(6/22→6/30)目的「インドネシアへの太陽光発電の電気的な技術指導」



町の人たちによる「自転車整理ボランティア」が始まって、約三ヵ月余りが過ぎた。

好意ある活動をして頂いているのは、小管、原口、佐々木、名取さんら四氏だが(時に金子さんが加わる)、人生のヴェテランの眼に、学生達の姿やマナーが、どう映っているか、うかがった。

まず第一は、「素朴な学生が多い」というのが、共通した感想。第二は、「最近、挨拶の声をかけてくれる学生さんも増え、その点がとても嬉しい」

しばしば付くことだそうだが、「駐輪禁止区域となっている場所に、依然、自転車を置く学生が何人かおり、

ために後から登校してくる者が、それに右へ倣えしてしまふ」

この指摘だった。

それは換言すれば、「みんなで渡れば恐くない」式の悪い風潮のなせる業だが、世はなべて何らかの「社会契約」で成り立っているもの。従ってそのような逸脱行為は決して許されべきことではない。

学園のモットー「Clear & Green Campus」の意味するものは、「マナーの遵守」にもある点を、よく銘記したいものだ。

編集後記

▼学園創立九十周年を御祝いする式典が六月二十九日に行われました。明治四十年に創設された本学園は、幾多の苦難を乗り越えながら、工業教育ひとすじの歩みが続け、我が国の工業の発展に大いに貢献してきました。このことに因りては、「九十年史」を刊行致しましたので、後日改めてお味読三読下さい。

五月には記念事業の一つである学生厚生施設「スチューデントセンター」が完工。その他、全学あげての文化行事・体育行事も計画されています。十一月には祝賀会を行い、さらに次世紀へ向かっている飛躍を、全職員、学生、卒業生、また多数の関係者の皆様方とともに、御祝いをしたいと思います。▼三浦朝郎元学長が、五月二十日にお亡くなりになりました。先生のお人柄やご業績について図書館長の竹内共通系教授にご執筆戴きました。心よりご冥福をお祈りいたします。合掌。

(F)